京都帝國大學法科大學

經濟論叢

第一卷　第四號

論說

◉收益ト生產費トノ關係　法學博士　河上肇
◉專賣ト戰後財政　法學博士　小川鄉太郎
◉經濟學認識論ノ若干問題(二、完)　ドクトル商學士　左右田喜一郎

雜錄

◉危險分散主義ノ原則　法學博士　神戸正雄
◉經濟主義ニ就テ　法學博士　戸田海市
◉英吉利ノ農政問題(二、完)　助教授　河田嗣郎
◉享保年間ノ米價調節(二、完)　法學士　本庄榮治郎

雜報

◉經濟的進化ト人口法則(一)　講師　米田庄太郎
◉戰爭利得稅新案　法學博士　小川鄉太郎
◉獨逸帝國全體ニ亘ル半官企業組織新說　法學博士　神戸正雄
◉英國ノ戰費ト經濟　助教授　河田嗣郎
◉獨逸ノ植民的運動ノ回想　助教授　山本美越乃
◉相續稅ト家族制度　法學博士　神戸正雄
◉本多利明ノ著書ニ就テ　法學士　本庄榮治郎
◉こんらーど教授逝ク　助教授　河田嗣郎

英吉利ノ農政問題（二、完）

助教授　河田嗣郎

（四）住居問題

農業勞働者ノ勞賃ノ低ク其ノ生活ノ困難ナルヤ既述ノ通リデアツテ、食物ノ如キ、大多數ノ者ハ體力維持ニ必要ナル營養量ノ四分三ダケノモノシカ、之ヲ攝ルコトガ出來ヌト云フノガ一般ノ有樣デアル。從テ其ノ住居狀態モ亦劣惡ヲ極メ、大都市ニ於ケルト同意味ノ住居問題ガ農村ニモ起ツテ來テ居ルノデアル。而シテ食物ノ方ハタダ勞賃ヲ相當ニ高カラシメテ、勞働者各自ヲシテ相當ナル營養物ヲ攝取スルヲ得セシムルト云フヨリ外ニ施設ノ道ノ無イコトデアリ、其爲ニ農業勞働ニ對シテモ亦彼ノ『最低賃率制』ヲ布カナノレバナラヌト云フ樣ナ議論ガ行ハレテ居ルノデアルガ、住居ノ方ハ直接ニ其ノ改善ノ爲メニ法令ヲ設ケ若クハ國家ヤ地方團體ノ手デ之ガ改善ヲ

强制スルコトモ出來ル次第デアルカラ、今ヤ英吉利ニ於テハ農村ノ住居改良ト云フコトハ差當ツテノ實際問題トナツテ來テ居ル。國家モ多少之ニ手ヲ着ケテ居ルノデアル。

英吉利ノ農村ニ於ケル普通勞働者ノ住居狀態ガ、一般的ニ之ヲ見テ、頗ル劣惡ナルコトハ誰人モ之ヲ認ル所デアツテ、簷ハ傾キ壁ハ落チタル小サナ敗屋ノ多イニハ、旅行者ト雖モ寧ロ一驚ヲ喫スルノデアル。家ガ古クテ然モ修繕ガ行屆カズ、狹クテ其上ニ汚イノデアルカラ、其中ニ住フ勞働者ハ爲メニ健康ヲ害スルコトモ甚シイ。今ヤ斯ノ如ク住居狀態ノ劣惡ナノト粗食トノ爲メニ、英吉利ノ田舍ニ於ケル肺結核患者ノ數ノ多イコトハ寧ロ驚ク可キモノデアツテ、良ニ容易ナラザル問題ヲ惹起シテ居ル次第デアル。

都市ニ於ケルト同ジク田舍ニ於テモ亦、勞働者ノ家族ノ數ニ對シテ住家小ニ過ギ一室内ニ老少男女混然トシテ雜居シナクテハナラヌ有樣ヲ呈シテ居リ、個々調査ノ結果ノ色々ト公ニセラレタ所ニ徵シテ見ルト、一ツノ寢室ノ中ニ男女両性ノ成年者ガ三人若クハ四人起臥シナクテハナラヌ樣ナノモ少クナイ。住居狀態調査ノ爲ニ設ケラレタ特別委員會ノ報告スル所ニ依ルトの1ざむば15んど州ノ農村ニ於ケル十二萬四千七百六十三戸ノ内十一萬八千九百七戸ハ五室ヨリ少イ間數シカ持タヌモノデアツタ。又十七州ニ於テ四十四ケ村ニ渉ツテ行ハレタ調査ニ依ルト唯ダ一寢室シカナイ家ガ四百六十四戸アリ、二寢室シカナイノガ千八百五十二戸アツタ。又は一ツ州ノ醫官ノ調査ニ依ルト二寢室以上ヲ有スル家ノ一軒モナイ村ガアリ、或一家デハ一寢室内ニ夫婦ト八人ノ子供トガ起臥ヲ共ニシテ居タ。又一九一一年りんとん地方デ行ハレタ調査デハ調査戸數三百六十五ノ内七割七分迄ハ三寢室以下ノ小屋デアリ、五割七分ハ一寢室シカ有テ居ナイ家デアツタ。

而シテ斯カル小家屋ノ内ニ二家族ノ者ノ雜居シテ居ルノモアルノデアル。

斯ク住居ノ劣惡ナル上ニ農村住家ノ不足ハ甚シイモノデアツテ、其ノ不足正ニ十萬戸ナル可シトセラレテ居ル。雖フニ住家ノ不足セルガ爲メニ劣惡ナ家屋モ尙且ツ居住ニ用ヒラルルノデアルカラ、好イ新イ家ノ澤山ニ出來ルコトガ現下ノ必要タラザルヲ得ナイ。

而シテ農村勞働者ノ普通ニ居住シテ居ル住家ハ大抵地主タル雇主ノ所有スル所デアツテ、家賃ハ之ヲ勞賃ト差引カルルガ例デアリ、特別ニ取立テテ之ヲ計算スルノトシナイノトアルガ、何レニシテモ家賃ノ見積ラレテ勞賃中ヨリ控除セラルル點ニ至ツテハ同ジコトデアル。其ノ家賃ノ額ハ前ニ勞働者ノ生計費中ニ之ヲ示シタガ如ク大抵平均一週間一志六片位ノ所デアリ、低キハ一志ヨリ高キハ二志ニ及ブヲ例トスル。此ノ額ハタダ其額ノミニ就テ之ヲ見レバ都會ニ於ケルヨリモ低イノデアツテ一見農村勞働者ノ方ガ金ノ上デハ得ノヤウデアルケレドモ、其ノ住家トシテノ實質ガ頗ル劣テ居リ都會デハ到底見ルコトノ出來ヌホド酷イ家ガ多ク、然モ又其ノ供給少キガ爲メニ、勞働者ハ多數家屋ノ中ヨリ自己ノ好ムモノヲ選擇スルコトガ出來ヌ所カラシテ、其ノ住居トシテノ實價コリシテ之ヲ攷フレバ、都會ノ勞働者ノ方ガ今日デハ確カニ優良ナ住居ヲ得テ居リ、家賃額ノ差以上ノ利益ヲ得テ居ルノデアル。

洵ニ農村ニ於テハ住家ノ供給ガ少ク又住家ハ大抵雇主ノ土地ニ附屬シテ居ルノデアルカラ、或ル雇主ノ下デ働カウトスル勞働者ハ厭デモ其ノ宛行ハレタ家デ滿足シナクテハナラズ、他ニ可然モノヲ選ムデ之ニ住フコトノ不能ナル事情ノ下ニ居ルノデアル。從テ其ノ住家ハ地主ノ爲人ニ依ツテ色色ニ異ツテ居リ、少シク闊明慈醫ノ地主ヲ戴イタ者ト頑迷貪慾ナ地主ヲ戴イタ者トハ少カ

ラス其ノ住居狀態ニ差別ガ有ルノデアル。ケレドモ概シテ云ツテ住居ハ劣惡住フ可ラザル樣ナノガ多ク、都市ニ於ケルト同ジク、國家ハ法令ヲ設ケテ餘リニ酷イノハ之ヲ毀却改築セシムルコトヲ必要トシ、又自ラ直接ニ住家供給ノ方法ヲモ講ゼザルヲ得ザル事情モ生ジテ來、之ニ關スル問題ガ甚シクナツテ來テ居ル次第デアル。

今國家若クハ地方團體ノ手ヲ離レテ農村ニ於ケル住家ノ供給ガ商的事業トシテ行ハレ得可キヤト云フニ、ソレハ到底現今ノ如キ低キ勞賃ノ下ニ於テハ勞働者ガ新家屋相當ナル家賃ヲ支拂ヒ能ハズト云フ單純ナル事實ニ依テ絶望ニ歸シテシマウノデアル。然ラバ今勞働者ノ境遇相當ナ然モ衞生其他ノ要求ノ具備セル住家ヲ建テルノニ幾十ノ資金ヲ要シ其ノ家賃從テ幾千トナツテ來ルデアラウカト吟味シテ見ルニ、曩ニ住家狀態調査委員會ノ調査シタ所ニ依ルト二戸續キ一軒ノ家ヲ建ツルニ一戸當リ百五十磅(ポンド)乃至百七十五磅ヲ要スルトノコトデアル。然シ此ノ調査ハ一八八七年ノ調査デアツテ其後物價ハ著シク騰貴シタカラ、今日此額デハ到底適當ナ家ハ建テ得ラレナイノデアル。ソコデ H. D. Harben 氏ハ今假リニ一戸二百磅デ出來ルモノトシテ、其ノ家賃一週五志乃至五志四片ナリト算出シテ居ル。其ノ計算ハ二百磅ニ對スル利息ヲ年五分ト假定シ、ソレニ租稅其他ノ掛リ金ヤ修繕費保險料等ヲ算定シテ立テタモノデアル。(The Rural Problem p. 39)

家賃一週五志デハ之ヲ今ノ低キ、平均十八九志ノ勞賃中ヨリ支拂フコトノ到底不可能ナルハ論ヲ俟タナイ所デアル。然ラバ卽チ住家ガ商的事業トシテ新築供給セラルル望ハ無イト見テ間違ナイ。若シ此ノ事業ノ望アラシメントナラバ、勞賃ハ之ヲ上ボシテ少クトモ二十五志ニハシナクテハナラヌ。先ニ之ヲ述ベタガ如ク、勞働者ノ生ヲ持ス可キ最低勞賃ハ二十志乃至二十二志トセラ

ルルノデアルカラ、今家賃五志ヲ出シ得ンガ爲ニハ勞賃ハドウシテモ二十五志ヲ下ルヲ得ザル譯デアル、之ヲ下レバ勞働者ハ其ノ生力ヲ維持スルニ足ル可キ生活ヲ爲シ得ヌコトニナルノデアル。

ケレドモ現今ノ英吉利ノ農業狀態ヲ以テシテハ農企業者ハトテモ最低二十五志ノ勞賃ヲ平均的ニ支拂ヒ得ルモノデハナイノデアッテ、國家ガ法令ヲ定メテ最低勞賃制ヲ布キ其ノ最低額ヲ二十五志ト定ムルト云フガ如キハ所詮行ハル可キ筈ノモノデナイ。

然ラバ住居問題解決ノ道トシテハ新家屋ノ建築ニ對シテ國家ガ建築費ノ幾分ヲ補助スルト云フ事以外ニ差當リ有效ナ方法ハナイノデアル。然シ之ニ對シテハ隨分異論ノアルコトデアリ、一朝國家ガ之ヲ行フコトトナレバ英吉利中自己、個ノ負擔ニ於テ家ヲ建テントスル者ハ無キニ至リ、何人モ其ノ住家ノ朽廢用ヲ爲サザルニ至ルマデ放置シテ置キ、結局國家ハ英國全土ノ全家屋ヲ補助新築シテヤルコトニナルデアラウト迄論難セラレテ居ル。然シ乍ラ之ハ極端ナ議論デアル。現ニ又愛蘭デハ此ノ方法ニ依ル勞働者住居改造ガ行ハレテ居ルノデアル。卽チ愛蘭デハ地方團體ガ國庫ノ補助ヲ得テ勞働者ノ爲メニ住家ヲ建築シテ供給スル方法ヲ定メ、一九〇六年ニ之ニ關スル法令發布サレテ以來一九一三年ニ至ル迄ニ於テ既ニ四萬四百六十六戸ノ家ガ建造セラレ、愛蘭政府ハ此ノ目的ノ爲メニ地方團體ニ對シテ既ニ七百八十六萬餘磅ヲ貸付ケテ居ル。而シテ一戸ノ建築費ハ百二十磅乃至二百磅デアッテ、家賃ハ一週九片乃至一志六片ノ間ニ在リ平均一志三片トナッテ居ル。然リ而シテ建築ノ費用ハ、之ヲ愛蘭全體ニ渉ル平均ニ就テ見レバ、家賃四割四分五厘、租稅二割四分、國庫補助三割一分五厘ト云フ割合デ負擔サルルコトニナッテ居ルノデアル。

要スルニ英國ニ在ツテハ農村ニ於ケル住居問題ハ甚ダ切迫シタ問題デアリ、農政問題デアルト同時ニ頗ル社會政策的色彩ノ强イ問題ヲ爲シテ居ル。從テ之ガ研究及ビ解決方法ハ一般ノ社會問題ト共ニ之ヲ爲サルル次第デアル。

(五) 小農制

以上數項ニ渉テ論ズルガ如ク、英國ノ一般農業狀態ハ之ヲ生産ノ上ヨリ見ルモ、又農業勞働者ニ關スル方面ヨリ見ルモ頗ル不都合ナ有樣ニアルノデアツテ、之ヲ成行ノ儘ニ放任スルニ於テハ實ニ憂フ可ク恐ル可キ結果ヲ齎スニ至ル可キコトハ睹易キ所デアル。茲ニ於テカ此ノ英國ノ農業狀態ヲ根本的ニ改造ス可キ制度ノ攷究セラレ、又多少實行セラルルニ至ツタノデアツテ、前出納尙書ろいど、じよーじ氏ノ如キハ最モ勇敢ニ又隨分思ヒ切ツテ此ノ方面ニ向ツテ辣腕ヲ振ハント試ミタノデアル。

小農制(スモールホールディング)ノ如キモツマリ英國農業狀態ノ根本的刷新ノ爲メニ行ハルルモノデアツテ、其ノ目的トスル所ハ、大地主制ニ伴フ土地ノ荒廢ヲ避ケ、小農制ニ依ル集約經營ニ依テ農業生産ヲ增加セシメ、且ハ又農業勞働者ヲシテ比較的容易ニ土地ヲ取得スルヲ得セシメ、其ノ經濟狀態ヲ優良堅實ナラシメントスルニ存ズル。必竟之ニ依ツテ英國ノ農業各般ノ狀態ヲ調和アリ又實力アルモノタラシメント欲スルガ爲メノモノデアル。

英國ニ在ツテハ第十三世紀ニ至ル頃迄ハ所謂 open field system ガ行ハレ Manor (莊園)ガ廣ク存在シタノデアツタガ、此ノ制度ノ下ニ在ツテハ、農夫ハ土地ノ完全ナル所有權コソ有セザレ、

實際ハ一種ノ小地主制デアツタノデアル。然ルニ十三世紀以後漸クニシテ Enclosure ガ行ハルルニ至リ、土地ハ段々生垣ニ依テ圍繞セラレ、大地主制ハ同時ニ小地主制ニ取テ代ルコトトナツタノデアル。斯クテ英國ノ土地ハ少數ナル大地主ノ領有スル所トナリ、今ヤ農企業者ニシテ土地ヲ所有スル者ハ僅カニ一割二分シカ無イ有樣ト迄ナツテ來タ。

然ルニ既述ノ如ク一八七、八〇年代ヨリシテ事情ハ俄カニ變化スルニ至リ、小麥ノ價格大下落ハ大地主ヲシテ甚ダシキ窮境ニ陷ラシムルニ至リ、大農ニ依ル粗放農業ヲ以テ穀物ヲ作ルコトハ到底引合ハヌニ至ツタ。而シテ今ヤ英吉利ガ內地ノ農業ニ向ツテ要求スル所ハ野菜ヤ果實ヤ花卉ヤ鷄卵ヤ牛乳ヤばたーノ類デアツテ、何レモ大農ヨリモ小農ノ生產ニ適シタモノノミトナツテ來タノデアル。此ノ時勢ノ要求ニ應ゼンガ爲メニハ大地主制ヲ改メテ小地主制タラシムルコトハ生產上ノ問題トシテ實ニ避ク可ラザル必要ト爲ツテ來タノデアル。

ソレニ又他方勞働者ノ生活難ト都市生活ノ誘惑トハ農村人口ヲシテ益々減少セシムルバカリデアリ、農民向都ノ情勢ハ今ヤ到底之ヲ放置ス可ラザルニ至リ、國民健康上社會構成上等ノ種々ノ問題ハ來ツテ堅實ナル小農ヲ田舍ニ植付クルヲ切要ナラシムルニ至ツタ。此爲ニモ亦小地主制ハ必要避ク可ラザルモノト爲ツテ來タノデアル。

此ノ必要ニ依ツテ生レタ小農制ハ一九〇八年ノ Small Holdings Act ニ依ツテ甫メテ實行ノ域ニ入ツタノデアツテ、一九一三年五月ニ發行サレタル委員會ノ報告書ニ依レバ、County Councils ガ買收シテ之ヲ小農制ニ向ケタル土地ハ一九一二年歲末迄ニ於テ十五万五千えーかーニ及ビ其ノ獲得及ビ處分狀態ハ左ノ通リデアル

一五四、九七七えーかー　獲得　一〇四、五三三えーかー（三、三八五、二六二磅ニテ買取）
一五〇、四四四（六三、五二八磅ニテ貸借）
処分　一二四、七〇九（八、九五〇人ニ貸付）
二一二（二〇人ニ賣却）
六、〇九四（四九ノ小農組合ニ貸與、組合ハ又之ヲ九六七人ノ組合員ニ貸付）

右ノ外二七、〇〇〇えーかーハ地主ヨリシテ直接ニ一、九八四人ノ小農ニ分配セラレ、尚ホ一、五八六えーかーハ Councils of county boroughs ニ依リテ一九二ノ個人ト六三ノ組合員トニ貸與セラレタ。斯クテ五年間ニ小農トナリ得タ者ガ一五、一七六人、希望シテマダ土地ヲ獲ザル者八、五〇八人。ソシテ土地ノ代價ハ一えーかー平均三二磅七志八片、貸借地代一磅五志二片ト云フコトニナッテ居ル。農地ノ平均面積ハト云ヘバ、十三乃至十四えーかート云フコトニナッテ居ルガ、之ハ地方ニ依ッテ其ノ平均ニ少カラザル差ガアルカラ事實ニ近イ數字デハナイ。

而シテ地方團體ガ小農制ヲ布クガ爲メニ土地ヲ獲得スル方法ハ右ノ表示ヲ見テモ明カナルガ如ク三方法アルノデアッテ(一)土地ヲ買ッテシマウコト(二)土地ヲ賃借スルコト(三)仲介ノ勞ヲ取テ地主ト小農希望者トヲ直接ニ契約セシムルコトノデアル。然シ土地ヲ買フガ爲メニハ少カラザル資金ヲ要シ、爲ニ地方債ヲ増スノ不利益ガアリ、土地ヲ賃借スルノデハ家屋ノ建築ノ出來ヌ不便ガアリ、仲介ノ勞ヲ取ルダケデハ小農ヲシテ十分安全ナル借地契約ヲ爲スヲ得ザラシムルノ缺點ガアルノデアッテ、何レノ方法ニモ一利一害アルヲ免レ難イ。

猶又小農制ナルモノハ大地主ヨリハ之ニ依ッテ獨立ノ農民ノ出來ルコトノ爲メニ嫌ハレ、農企業者タル農家ヨリハ之ニ依ッテ勞働者ノ缺乏シ勞賃ノ騰貴ヲ招致スルアルガ爲メニ喜バレナイノ

デアル。而シテ County Council ノ連中ハ大抵此等ノ大地主カ大農者輩デアル所カラシテ小農制ハ兎角豫想ホドニ成リ立タズ、又小農希望者ノ側ニ在ツテモ、所要ノ資金ノ無イガ爲メニ、又農家ニ雇ハレテ居ル者ニ在ツテハ自分ガ小農希望者タルコトノ雇主ニ知レレバ直チニ解雇セラルルノ恐アルガ爲メニ、兎角又希望者ノ數ガ少ク、要スルニ小農制ハ未ダ十分ナル成績ヲ上ゲ得ナイ狀況デアル。

而シテ又論者中ニハ根柢的ニ小農制ヲ否認スル者モ無イデハナイ。彼等ハ大農制ハ之ガ經營管理ヲ有效ニヤツテ行キサヘスレバ、穀物ノ如キ作物ヲ生産スルニハ勿論ノコト、牧畜ニ於テモ野菜、果實ノ栽培ニ於テモ、養鷄養豚ノ如キニ於テモ、大規模ノモノハ必ズヤ小規模ノモノヨリハ經營上ニモ技術上ニモ優レテ居ルト論ズルノデアル。彼等ハ英國ニ在ツテハ農地ハ一經營三百乃至五百ヘクタールヲ適度ト爲シ千ヘクタールヲ以テ限度トスルト爲スノデアル。

惟フニ大農小農ノ利害ノ如キハ作物ノ種類ト經營者其人ノ技能トニ依テ岐ルル所大デアツテ一概ニハ云ヘヌ所デアルガ、概シテ大農ハ總利得ニ小ニシテ純利得ニ大デアリ、小農ハ總利得ニ大デアツテ純利得ニ小ナルヲ原則トスルノデアルカラ、之ヲ企業者ノ立場カラ見ル場合ト國家全體ノ利害カラ見ル場合トハ自ラ判斷ガ分レテ來ザルヲ得ヌ。國家全體ノ利益ヨリ云ヘバ、廣ク小農制ノ行ハレテ總生産ノ多量デアリ特ニ之ニ依ツテ多數ノ農民ガ職ヲ得又勞働ヲ得ルコトニナルノヲ以テ大ナル利益トスルノデアル。

要スルニ英吉利ノ小農制（スモールホールディング）ハ其ノ目的トスル所ガ生産ノ方面ノミニ限ラズ、土地ノ分配ヲ公平ナラシメ、可成多數者ヲシテ土地ヲ獲若クハ獨立ノ農事經營ヲ爲スヲ得セシメ、依テ以テ農村ノ

振興ヲ計リ社會構成ノ上ニモ調和ヲ得セシメントスルニ存スルノデアルカラシテ、其ノ理想トスル所ハ勿論其ノ實行ニ於テモ、主義トシテ之ヲ非難ス可キ點ハ鮮イノデアル。唯ダ其ノ成功ヲ期スルガ爲ニハ種々ノ條件ヲ必要トシ、特ニ小農者ガ人トシテモ農民トシテモ有爲實着デアルコトヲ必要トスル。又小農地ガ個々ニ分散シテ存在セズ、可也多數ノモノガ一所ニ集存シテ組合ヲ組織シ、之ニ依ツテ小農者ガ相互保助ヲ爲スヲ得セシムル等ノ事ヲ第一必要ノ事項トスルノデアル。何レニシテモ農民ハ個々別々ニ孤立シテ居テハ到底方今ノ如キ經濟界ノ荒キ風波ニ堪ヘ得ザルモノデアツテ、産業組合ノ必要ハ誠ニ避ク可ラザル所ナノデアル。

(六) 産業組合

予輩ハ此ニ最後ニ英吉利ノ産業組合ニ就テ一言セザル可ラザルノ域ニ到達シタモノデアルガ、英吉利ニ在リテハ産業組合ニ關スル運動ハ大陸諸國ニ於ケルヨリモ遙カニ後レヲ取ツタモノデアツテ、其ノ現狀ニ就テ見レバ未ダ頗ル幼稚ナモノタルヲ爭ハレヌ。

英吉利ニ在ツテハ産業組合ノ運動ハ先ヅ愛蘭ニ於テ起リ英蘭やうにーるすナドハ云ハバ之ニ倣ツテ運動ヲ起シタノデアル。而シテ後者ニ於ケル産業組合精神ノ傳播ニ盡シ組合ノ組織ニ付テ專ラ働イテ居ルノハ Agricultural Organisation Society デアル。一九〇一年ニ之ガ組織ヲ見ルニ先チテハ英蘭及うにーるす所在ノ組合數ハ僅カニ十二ニ過ギズ、其ノ組合員五百十七人ヲ數フルノミデアツタガ、同會組織セラレ活動ヲ始メテ以後六年、卽チ一九〇七年ニ至ツテハ、組合ノ數ハ增シテ一四二トナリ、組合員九千ヲ算スルニ至ツタ。而シテ一九一二年ニ同會新理事機關ノ出來

上ツタ際ニ於ケル其ノ所屬組合ヲ調ベテ見ルト實ニ左ノ如キモノデアツタ。

購買組合	一六四	雜種組合	一四
牛乳バター製造組合	二三	中央農業組合銀行	一
小農制組合	一八〇	農業及ビ一般保險組合	一
農業信用組合	四五	蘇格蘭農業組織協會	一
養鷄組合	二四	計	四五三

而シテ一九一三年六月三十日ノ報告書ニ依レバ所屬組合ハ四七八ニ增シ組合員總數四萬五千ト註セラレテ居ル。之ヲ他國ノ狀態ニ比スレバ數ニ於テモ事業ニ於テモ頗ル劣ツタモノデアル。獨逸ノ如キニ在リテハ組合數三萬ニ及バントシツツアルノ有樣ナノデアル。

斯ノ如ク英吉利ニ在ツテハマダ產業組合ガ發達シテ居ヌノデアルガ若シ英國ノ農業ヲ振興シ小農制其他ノ施設ニ依ツテ生產ヲ增シ又農民ノ經濟ヲ確立セシメントナラバ、必ズヤ同時ニ產業組合ノ普及ヲ計リ其ノ組織ヲ堅實ニシ又其ノ活動ヲシテ有效ナラシムルヲ必要トスル。而シテ英國ニ於テ產業組合ノ働ク可キ餘地ノ十分ナルハ試ニ之ヲ農產品及ビ其ノ製品ノ販賣狀態、其ノ市場組織、其ノ價格等ニ就テ見タダケデモ容易ニ之ヲ知ルコトガ出來ル。市場組織ガ不完成デアリ生產ト販路トノ連絡ガ惡ク、運搬ノ便ガ缺ケテ居タリ又運賃ガ高カツタリ、仲間ノ商人ガ利益ヲ壟斷シタリスルナドノ事ヲ攷フレバ、愈々以テ產業組合ガ此等ノ方面ニモ活動ノ手ヲ擴グ、需給關係ヲ調和シテ價格ヲ齊整ナラシメ、生產者消費者共ニ利益スルノ道ヲ開クヲ必要トスル。タダ之ヲ仲間商人ノ爲メニ壟斷セラルル利益ノミニ就テ見テモ Christopher Turnor 氏ノ調査ニ照セバ實ニ

羊肉	二七%	蜀黍	五四%
牛肉	一六〇	豌豆、蕪豆、胡蘿蔔等	一〇〇—一八〇
牛乳	一〇〇—一二〇	小果實	一〇〇—一五〇

ト云フガ如キ割合ヲ示シテ居リ、牛乳、果實、野菜ノ類ニ至ツテハ、生産者ノ手ヲ離レテ小賣セラルル迄ノ間ニ於テ其ノ價格ハ二倍若クハ二倍半ノ高價トナツテシマウノデアル。今若シ此ノ市場組織ノ複雜不完整ナルヲ改修シテ生産者ト消費者トノ接近ヲ計ルヲ得タナラバ、爲メニ利スル者ハ啻ニ私經濟上ニ於ケル農業生産者及ビ消費者ノミデハナイノデアツテ、英吉利經濟界ノ全般ノ有效力ヲシテ更ニ一層多大ナラシムルハ疑ナキ所デアル。其他資金關係ニ於テモ生産方面ニ於テモ盡ス可キ餘地ハ廣汎デアル。

要スルニ英吉利ノ農政ハ諸多ノ方面ニ於テ今後大ニ施設盡力スル所ナクテハナラヌ。而シテ之レ實ニ英國ノ前途ニ取テハ良ニ輕カラザル意義ヲ有スルモノデアル。(終)

本文ノ資料ハ主トシテ之ヲ左ノ諸書ニ採ツタ

1. Aronson, H. Our Village Homes. 2. Green, F. E. The Awakening of England. 3. Harben, H. D. The Rural Problem, 1913. 4. Kropokin, P. Fields, Factories and Workshops. 2nd. ed. 1912 5. Long, J. Small Holdings. 6. Nicholson, J. S. The Relations of Rents, Wages and Profits in Agricuture, 1906. 7. Pratt, Edwin A. Agricultural Organisation. 8. Rew, R. H. An Agricultural Faggot. 1913. 9. Seebohm Rowntree, How the Labourer lives.1913.